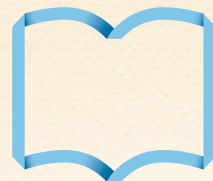


図書だより



菊池市立図書館ホームページ <http://www.library-kikuchi.jp>

中央図書館 ☎ 0968 (25) 1111 【休館日】月曜日
 泗水図書館 ☎ 0968 (25) 1115 【休館日】月曜日・月末・祝日
 七城図書館 ☎ 0968 (25) 1580 【休館日】日曜日・祝日
 旭志図書館 ☎ 0968 (25) 3332 【休館日】日曜日・祝日



菊池市立図書館
Kikuchi City Library

絵本の世界



あぶくたった
 さいとうしろうのぶ／構成・絵
 (ひさかたチャイルド)
 ねずみさんのかぞくがおしるこ
 をつくっています。『あぶく
 たった にえたった にえたかど
 うだか たべてみよう』わらべう
 たを絵本にした楽しいお話です。
 (全館所蔵)

今月のおすすめ図書

中央図書館
 クリスマスの3つの物語 日英対訳 チャールズ・ディケンズ ほか／原作
 おいしい週末、だれか来る日のごちそう献立 近藤幸子／著
 ジビエ教本 依田誠志／著
 新・映像の世紀大全 NHK「新・映像の世紀」プロジェクト／編著
 世界の美しい本 海野弘／解説・監修
 ドラゴン学総覧 NEW EDITION ドゥガルド・A・スティーブル ほか／編集
 うなりやべん ベんの紙芝居 NHK Eテレ「にほんごであそぼ」制作班／編

泗水図書館
 月の満ち欠け 佐藤正午／著
 宿命と真実の炎 貴井徳郎／著
 現車(うつつぐるま) 前編・後編 福島次郎／著
 「言葉にできる」は武器になる。 梅田悟司／著
 転んでも、大丈夫 白井二美男／著
 空にむかってともだち宣言 茂木ちあき／作

七城図書館
 アンカー 今野 敏／著
 人間力を高める読書法 武田鉄矢／著
 家族でつくる心地いい暮らし 本多さおり／監修
 アランの歯はでっかいぞ こわーいぞ ジャーヴィス／作
 戦国姫 瀬名姫の物語 藤咲あゆな／作
 ぼくらのハイジャック戦争 宗田 理／作

旭志図書館
 暗闇のアリア 眞保裕一／著
 ラノベ古事記 日本の神様とはじまりの物語 小野寺優／著
 驚くほどおいしい電子レンジ料理100 上島亜紀／著
 世にも奇妙なストーリー 百壁町の呪い 黒 史郎／著
 いっさいはん minchi／作・絵
 なんでやねん 中川ひろたか／分

中央図書館からのお知らせ

はじめまして、中央図書館です！

怒涛の開館準備を終え、11月25日にめでたくオープンしました。泗水・七城・旭志図書館を支えつつ、4館一丸となって皆さまにサービスを提供します。中央図書館は広い空間に加え、さまざまな設備を備えています。利用の仕方です迷ったり本が探せない時には、いつでも気軽にエプロンを着た職員にお尋ねください。皆さまのご来館をお待ちしています。



定期的におはなし会を開催します！

読み聞かせボランティア「おはなしのもり」さんが第2・4土曜日、図書館職員によるおはなし会が第1・3土曜日です。聞きに来てくださいね。

とき 毎週土曜日 午前10時30分～11時
ところ おはなしのへや(こども図書室内)

旭志図書館イベント情報

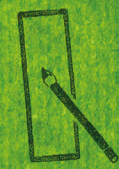
レジンでメモスタンドをつくらう！

レジンでおしゃれなメモスタンドを作りませんか？

とき 平成30年1月6日(土)
 ①午前10時30分～正午
 ②午後1時30分～午後3時
参加費 無 料
定員 各5人(先着順)
申込 12月4日(月)～22日(金)までに、電話または直接旭志図書館までお申し込みください。

※小学生低学年以下の方は保護者同伴での参加をお願いします。
 ※ピンセットや飾り付けで使いたいものがあれば、お持ちください。

文芸きくち



万句の里俳句会 10月句会

そこに雀啄む刈田中
 彼岸花狭庭にはかに色めけり
 石畳一步一步に秋の声
 皓々と月天心に至りけり
 病床の友を気づかふ夜長かな

宮本 敏子
 野中 公枝
 隈部 輝子
 加藤 妙子
 宮本 雅子

七城短歌会 10月詠草

詠友が呉れし菊苗花来たりしはしを賞でる日課あらなむ
 早刈りし稲収納に不服あり以後雨つづき今には反省
 稔り田に渡る風ありサワサワと穂擦れの音に聞き惚れいたり
 母上の教えを憶う秋晴れの朝の縁に布団干すなり
 刈り取りの終えし田の面は水浸し雨神はひと日を休息給う

池田カツ子
 佐々 重弘
 嶋田 晴美
 緒方 寛子
 緒方 正俊

せせらぎ俳句会 10月例会

てにをはの一字の思案夜長かな
 紅葉挟み障子繕ふ孫は去にし
 黄菊白菊夫に感謝の車椅子
 アルバムに思ひ出さがす夜長かな
 戸の閉まる音にも秋の深みかな

五丁 義昭
 隈部 静子
 藤本アツ子
 森 正子
 藤本 邦治

「里」短歌会 10月詠草

彼方此方に彼岸を告げる赤き花夏を沈めて秋風の吹く
 十三夜の真下飛び行く点滅の赤と緑はムーンフライト
 「壮ちゃん鯉見に行こう」友の見舞の常なるを八十路の兄は万年少年
 岸壁を叩きてえぐる波あらし怒れる天地向かう術なく
 上五島降り立つ埠頭朝靄の中彼方に響く教会の鐘

緒方 悦子
 江頭 桂子
 松本 和子
 桑野 睦子
 坂本 玲子

旭志文芸教室俳句の会 10月詠草

絹雲に燕帰る日近きかな
 隣国の危うき言葉原爆忌
 運動会子等の歓声餅する
 大夕焼真向いにして戻りけり

芹川 蓉子
 中尾ヨシコ
 芹川のり子
 水谷 ミネ

さわやか大学文芸クラブ 10月歌会

朝露の光る草叢地に低く吾の巡りをトンボ群れを舞う
 台風の子りて静もる電線に番の鳩の羽根をつくらふ
 次々と異変おこれる年なれど傾く秋の夕陽輝く
 掛カバールふと丸めて奮闘しやうと仕上げて寒さに備う
 賑やかに酒に笑いに酌み交わす法事の後の台風の夜

緒方 悦子
 江頭 桂子
 松本 和子
 桑野 睦子
 坂本 玲子

肥後狂句水笑会 10月例会

器用な人 何遍も媽変えきらす
 どんこんでらん 喉まできとる人の名が
 おかしかな 何処から見ても男だろ
 ピツタリ 服を買ったらほめられた
 おかしかな うちの仏は団子食わす

井手 水光
 宮上 美由
 柏原 乗仏
 御手洗三代
 山隈 好茶

菊池短歌会 11月詠草

鶏頭の唐紅に照り映えて色の重さに傾きにつづ
 うばゆりのまろき果実は乾きつつただに立ちをり風にゆだねて
 西日さす屋根につがひのガラスかな左右を向きて少しく離れ
 饒舌を悔ひて帰れば夜更けまでルオの道化に見つめられをり
 これはもう達人としか言ひやうのなき美輪明宏氏の人生相談

中川 愛子
 怒留湯健蓉
 安藤 則子
 岩永 典子
 古賀 勝士